
その風が吹き荒ぶ時刻

はじ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

その風が吹き荒ぶ時刻

【Nコード】

N6558P

【作者名】

はじ

【あらすじ】

その人が欲しいと願うものが入っているという伝説の福袋。その夢のような袋を求め、僕は街へと繰り出した。

(前書き)

初投稿です。web検索ランキングにあった「福袋」「時刻表」「オーロラ」という単語を使って三題話を書いてみました。至らぬ点も多いと思いますが、アドバイス等ありましたら是非お願いします。

その人が欲しいと願うものが入っているという伝説の福袋。

その夢のような袋を求め、僕は街へと繰り出した。

吹き荒ぶ春一番を全身で受け止める。暑いような寒いような、どっちつかずの気温。このように曖昧ではっきりとしない気候の方が好ましい。

世間の風、風聞、流行——ありとあらゆる「風」に吹かれて僕たちは生活している。

流れに身を任せてもいいし、逆らってもいい。その全方位から吹いてくる風をどう感じるかは、僕たち次第である。

今僕の目の前に、どこからか飛ばされて来たのだろう、一枚の藁半紙が舞い落ちて来た。この藁半紙はどんな「風」に吹かれて来たのだろう？

僕は乾いた地面に落ちた紙を拾い上げる。

四つの数字が一組となって「時間」を表している。組みはいくつか書かれており、礼儀正しく整列するかのようになから下へと流れている。時の流れを文章化したような感じだ。

首を捻り、横になった世界でその紙を見る。

そうすることで何か特別なものが見える訳ではない。ただ、真っ直ぐ見ていては見えないものもあるだろう。そう思ったから、そうしただけである。

そんな気紛れが功を奏したのか、僕は拾い上げたこの紙が何かの時刻表であることに気が付いた。

電車にしては時刻の間隔が離れすぎている。バスにしては短すぎる。——つまり、これがもし何らかの交通機関の時刻表なのだとしたら、その機関はとても絶妙な間隔で訪れるということは理解できた。

その絶妙な時刻表を四つ折りに畳んでポケットへと仕舞う。風は

変わらずに強く吹いている。自身の存在を誇示するかのよう、流れを作りだしている。

都会という名ばかりの土地に屹立するビル群。風に流されてゆく人々。

——僕も流されてはいないだろうか？

時刻表を開いて見る。

15…45

腕時計を見る。

15…45

ビルの間を縫うようにやって来たひと際強い風が僕を襲う。僕の体は宙に浮き——風に攫われる。ミキサーの中で混合されるフルーツの気分はこのようなものだろう。自分とは違うものと強引に混じり合わされ、フルーツたちは自我を失って行く。僕は目を閉じて風に身を任せ、混じり合うフルーツたちに思いを馳せた。

風はオーロラのように波上の軌跡を描いて僕の体を運ぶ。僕は風に身を委ね流されていく。どこまでも、どこまでも——

何時しか風は止み、僕は風に飛ばされた洗濯物のようにふわりとデパートの前へと降り立った。デパートの自動ドアが開いたので、中に入る。

天井から吊るされた看板には目を引く紅色で書かれた「福袋」の二文字。

家族連れや若い男女のカップルが犇めき合い、我先にとアルミ製のワゴンから小さな袋を取り合っている。僕もその中へと足を踏み入れる。

この先に、僕が求めている伝説の福袋があるのだ。

誰かの肘が僕の側頭部を打つ。後ろに髪を引っ張られる。足を掴まれ右足の靴が脱げる。

満身創痍でワゴンの前に辿りつき、小さな袋の中でも一番大きく見えた袋を掴み取る。僕は握る袋の重みに確かな手応えを感じなが

ら激戦の渦中から抜け出す。

焦る気持ちを宥めすかし、袋の口を結んでいる紐を解いてその中を見る。

中には――

僕を見上げる僕そっくりの小人。

そう。

これが流されて、流され続けた僕が欲しかったもの。

（後書き）

流言や流行に流されがちな世間に対して自分自身とは何なのか、というメッセージを込めて書いてみました。90分という時間も設けて書いたわりには、全体的にまともな上げられたと思います。感想、意見、アドバイス等ありましたら是非お願いします。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6558p/>

その風が吹き荒ぶ時刻

2011年1月13日05時42分発行